



令和元年度第1回 旧国立駅舎運営連絡会

国立市都市整備部国立駅周辺整備課
令和2年1月14日

旧国立駅舎運営連絡会 の趣旨説明



はじめに

大正15（1926）年の開業以来、**まちのシンボル**のひとつとして、多くの皆さまに愛され続けてきた赤い三角屋根の**「旧国立駅舎」**は中央線の高架化工事のため、平成18（2006）年、惜しまれつつ駅舎としての役目を終えました。

しかし、解体を惜しむ多くの方々の声を受け、将来再築できるよう、解体された部材を市が大切に保管してきました。

市は、今年度中に再築工事を完了させ、**令和2（2020）年4月4日（土）**に、**まちの魅力発信拠点**として、新たに活用します。



旧国立駅舎運営連絡会の趣旨

この会は、旧国立駅舎を新たに活用していくにあたり、その**管理・運営**
について意見交換を行う会です。

いわゆる「審議会」や「協議会」とは違って、諮問・答申、採決のような形式は取らず、会全体としての意思表示も基本的に行いません。

基本的性格としては、**委員個人の意見交換の場**ということになります。
皆さまからいただいたご意見を参考にして、市の管理運営に活かしてまいりたいので、委員の皆さまからは旧国立駅舎がよりステキな場所となるよう、さまざまなご意見やアイデアを出し合っていただきたいと思います。

旧国立駅舎の概要



旧国立駅舎は文化財として再築

大正時代末期、箱根土地(株)（現（株）プリンスホテル）と東京商科大学（現一橋大学）が「理想の学園都市」をめざし、国立大学町を現在の国立駅周辺に開発したときに、箱根土地(株)がまちのシンボルとして駅舎をつくりました。

大正15（1926）年の開業当初、「赤い三角屋根に白い壁」という典型的洋館風の駅は、国立大学町の広告塔として大きな役割を担い、文化的なまち国立をイメージするデザインとして、分譲広告には駅の写真が大きく掲載されました。

旧国立駅舎は**国立市有形文化財**に指定されています。

今回の再築により、大正15（1926）年の**創建当時の姿**に復原します。



平面図

延床面積 約200m²
(木造平屋建て)



開館時間等

- ・旧国立駅舎は文化財として管理運営するため、開館時間を設定（夜間は施錠）。

【開館時間】

	広間	まち案内所及び展示室
平日	午前7時から午後10時まで	午前10時から午後7時まで
休日	午前9時から午後10時まで	午前9時から午後7時まで

【休館日】

年末年始

※清掃等の臨時休館日あり。

【運営者】

国立市（まち案内所は委託）

※3年を目途に指定管理者制度（民間に管理運営をお願いする）ことを検討予定。



活用コンセプト



活用コンセプト

●活用のキャッチフレーズ

三角屋根で“まちあわせ”

元々の駅舎としての機能の一つに「待ち合わせ」があります。これに「まち全体をつなぐハブ機能」や「まちの情報発信機能」といった、くにたちのまちと出会う「街あわせ」という意味を込めました。

歴史ある古い建物をまったく新しい活用方法に塗り替えるのではなく、新旧が共存する活用方針をめざします。

※当フレーズは平成29年10月開催の「旧国立駅舎の活用に関する懇談会」にて参加者の方からいただいたアイデアを組み合わせたものです。

●活用コンセプト

市内外の人々が集う交流拠点

さまざまな出会いが生まれる「まちのラウンジ」

市内情報発信・回遊性の向上

まちの魅力が集まり広がる「くにたちと出会う玄関口」

文化の発信

文教都市にふさわしい「歴史・文化・芸術の発信拠点」

●旧国立駅舎条例

第1条

国立市指定有形文化財としての旧国立駅舎の**歴史的価値を後世に伝える**とともに、その活用を図り、もって**まちの回遊性の向上**及び**魅力あるまちづくりの推進に寄与**するため、旧国立駅舎を設置する。



施設の利用

広間・展示室・屋外スペースは、旧国立駅舎の設置の目的を妨げない範囲において、
次の①～⑥のいずれかに当てはまる内容であれば、営利目的・非営利目的を問わず使って
いただくことができます。（営利目的利用の場合は使用料をいただきます。）

※使用申請の流れについては次回以降の会でご説明する予定です。

- ① まちのにぎわいの創出に関すること
- ② 人々の憩いの場の提供に関すること
- ③ まちの魅力等の情報発信に関すること
- ④ まちの歴史及び文化財に関する資料の展示等に関すること
- ⑤ 文化芸術の普及に関すること
- ⑥ その他市長が適当と認めるもの

部屋を閉め切って独占的に使うのではなく、**出入り自由な中で使っていただくことが基本**と
想定しています。

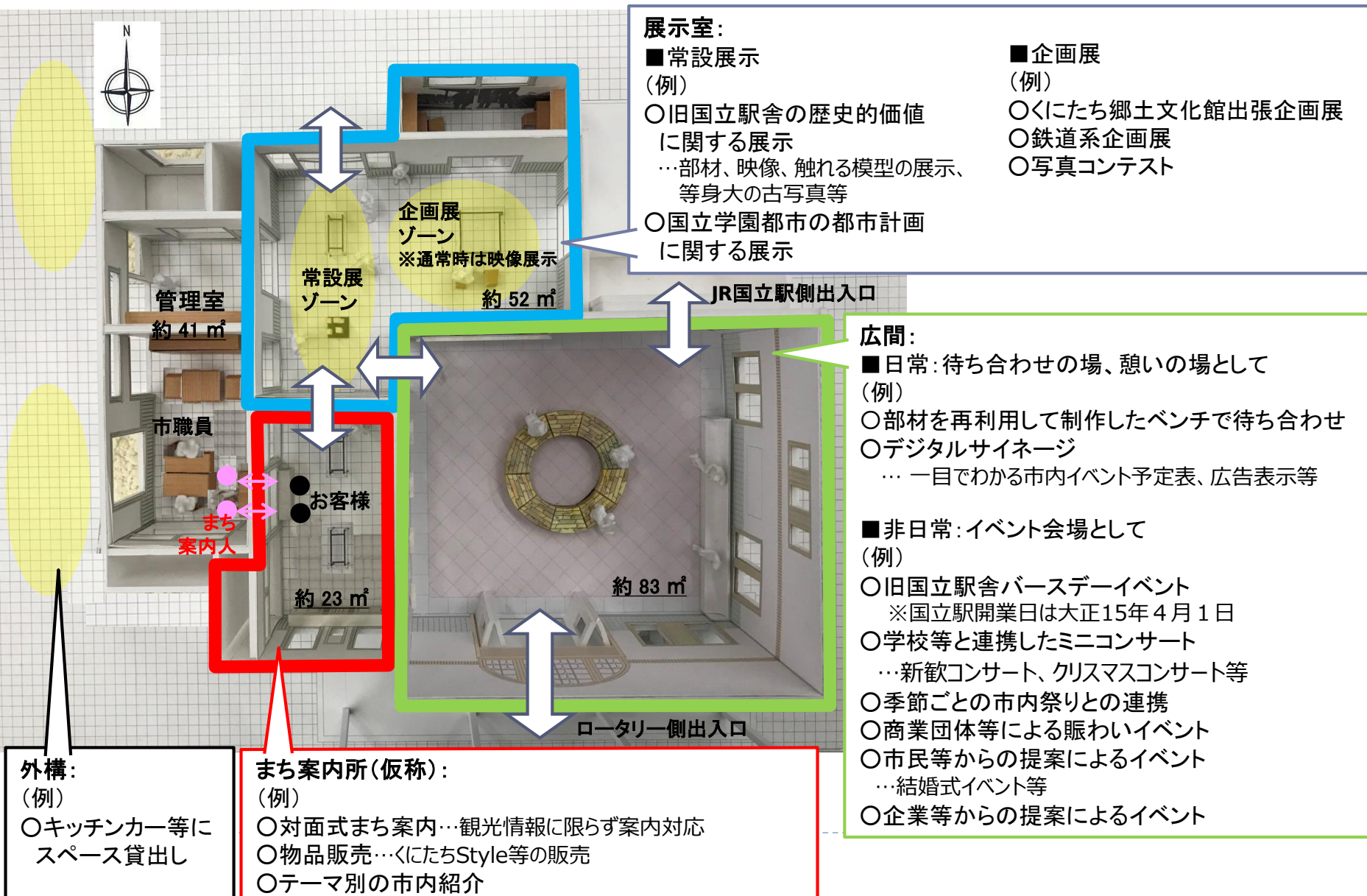
※文化財の関係で火気の使用ができません。また、保健所関係で建物内での調理はできません
（屋外での調理は可・屋内への持ち込みは可）。



事業イメージ

- ・賑わいと交流の拠点、まちの魅力を集約し発信する拠点として活用します。
 - ・貸館ではなく、活用コンセプトと合ったイベント等を行う場として位置付けます。
- (以下はあくまでも一例です。事業の内容は市民の皆さまと一緒に作っていきます。)

※令和元年8月版「国立駅周辺整備事業の現在」より



広間 内観イメージ図



※画像はイメージです。
※中央の円形ベンチは分割し運搬可能。



まち案内所 内観イメージ図



※画像はイメージです。

展示室 内観イメージ図



※画像はイメージです。

再築工事中の旧国立駅舎





まちのシンボル！ 市の有形文化財！



「旧国立駅舎」の魅力を再発見しよう

大正15年(1926年)に創建され、平成18年(2006年)にJR中央線の高架化に伴い、惜しまれながら解体された「旧国立駅舎」。しかし、多くの方々の声を受け、市指定の文化財として再びまちに帰ってきます(令和2年(2020年)4月オープン予定)。

長い間、市民の皆さまに「まちのシンボル」として愛され続けてきた「赤い三角屋根」の旧国立駅舎。その魅力を再発見してみませんか。



旧国立駅舎
完成予想図
だよ

三角屋根で“まちあわせ”

旧国立駅舎は、もとあったほぼ同じ場所に再築され、鉄道駅としてではなく公共施設として生まれ変わります。広間・まち案内所・展示室を持ち、さまざまな出会いが生まれる「まちのラウンジ」、まちの情報が集まり広がる「くにとちと出会う玄関口」。そして、文教都市にふさわしい「歴史・文化・芸術の発信拠点」をコンセプトに、まちの魅力発信拠点として活用していきます。

キャッチフレーズは、「三角屋根で“まちあわせ”」。もともとの駅舎の機能である「待ち合わせ」に、くにとちのまちと出会う「街あわせ」の意味を込めたものです。旧国立駅舎を拠点に、まちを巡り、くにとちの魅力を発見していきましょう。



①完成後作成
竹中工務店(旧国立駅舎
再建の設計施工を担当)
※画像はイメージです。

くにとち駅舎に住むさんかくこ 「くにとちニャン」

かつて旧国立駅舎に住んでいたといわれる猫の妖怪「くにとちニャン」。国立市観光まちづくり協会のゆるキャラとして、さまざまな場でまちのPR活動をしています。



旧国立駅舎の妖怪は
まさしくこれ
「くにとちニャン」

まちの歴史と旧国立駅舎の歴史

旧国立駅舎の歴史は、西武グループ創始者・堤康次郎と、東京商科大(現一橋大学)初代学長・佐野善作が「理想の学園都市」をめざし、国立大学町の開発をしたところから始まります。豊洲と区画された国立駅周辺の街路は、このときにつくられました。そして、堤康次郎率いる積根土地株式会社は都市計画のなかで「まちのシンボル」として駅舎をつくり、鉄道省に寄附しました。このように景観に大変配慮したまちとして、駅・駅前広場・大学通りを一体的につくり、まちの景観の中心に据えたことから、旧国立駅舎はまちを象徴する建物となったのです。



建築中の旧国立駅舎(大正15年)。完成した旧国立駅舎(大正15年)。平成15年ごろの旧国立駅舎。



大正14年ごろの分譲地画売用チラシの一部。
写真提供 ①②:株式会社ヤフウ ③:くにとち郷土文化館

建物の特徴

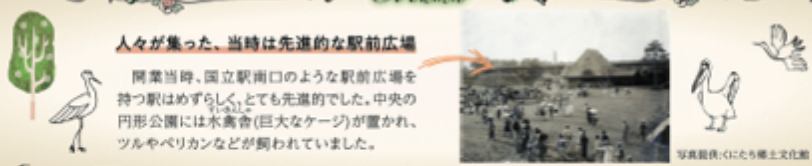
旧国立駅舎の設計者は、旧帝国ホテルで有名な建築家フランク・ロイド・ライトに師事した、河野傳であると考えられています。特徴は、英国の田園都市で見られる小住宅のデザインを取り入れた、赤い三角屋根に白い壁、ロマネスク風の半円アーチ窓やドーマー窓(屋根窓)を用いたつくり。ひさし部分の柱に、ドイツ・イギリス・アメリカ製の古レールを使用している点も特徴の一つです。

その強い個性の外観や大正期駅舎としての希少性、国立学園都市計画のなかで重要な位置にあった歴史的環境を理由に、市の有形文化財に指定しています。平成18年の解体後、保管していた材料の多くを再利用して再築しています。



旧国立駅舎正面スケッチ

くにとちニャン



人々が集った、当時は先進的な駅前広場

開業当時、国立駅南口のような駅前広場を持つ駅はめずらしく、とても先進的でした。中央の円形公園には水禽舎(巨大なケージ)が置かれ、ツルやペリカンなどが飼われていました。

写真提供:くにとち郷土文化館

本年、令和2年
(2020年)

4月4日

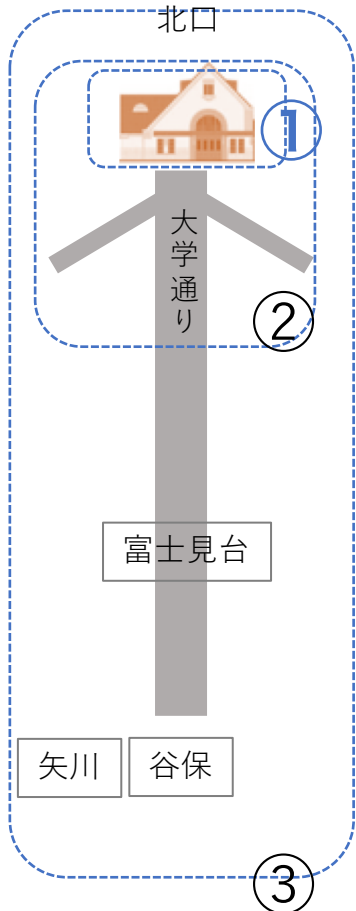
(土曜日)

午前11時

旧国立駅舎は
まちの魅力発信拠点として
オープン!!



「旧国立駅舎」 オープニング施策は 以下の 3層で構成。



① 旧国立駅舎オープニングイベント

旧駅舎館内

4月4日（土）、5日（日）

② 国立駅周辺オープニングイベント （＋市内回遊策）

国立市駅南口

谷保・矢川

4月4日（土）、5日（日）

③ 市民参画型オープンシティイベント

市内全域

4月4日（土曜日）～5月6日（振替休日・水曜日）